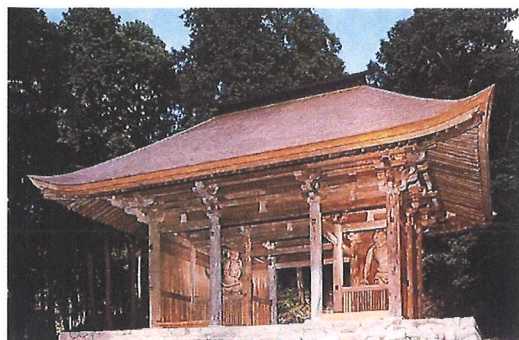


聖武天皇の勅願により行基が開創したとされ、源頼朝公・今川義元公・徳川家康公らの庇護を受けた歴史を持つ高野山真言宗の古刹

国重要文化財の仁王門・仁王像

財賀寺

天然記念物の森



財賀寺仁王門(国重要文化財)

神亀元年(724)聖武天皇の勅願により行基が開創、弘仁4年(813)弘法大師が中興しました。

本尊千手観音は、従者二十八部衆とともに、行基一刀三礼の彫像です。かつて源頼朝は源家再興の為、本尊に祈願し平家討伐を成し遂げました。その御礼に八間四面の本堂を再建、1300石余の寺領を寄進され、三河七御堂の一つに数えられました。

当時は七堂伽藍をはじめ百余の院坊があり、山外には数百の末寺を有する一大寺院でした。しかし、応仁の三河兵乱に遭い、一山は衰退し、末寺も離散してしまいました。

その後、牧野、今川、徳川等諸将の庇護を受け、殊に徳川家より朱印160石余、山林36町余を授かり、十万石の大名と同じ格式を認められていました。

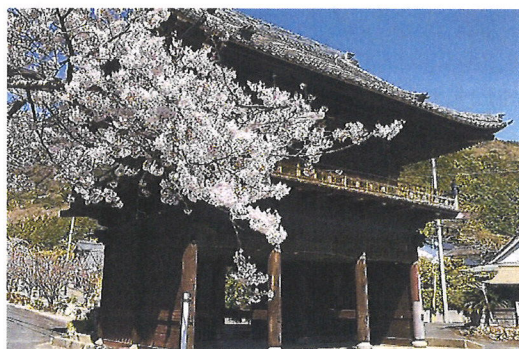
文殊様は、平安後期の三河の国守大江定基一代の念持仏。現在では智恵の文殊として親しまれ、特に3月最終日曜日の大祭は多くの学童父兄で賑わいます。

仁王像、仁王門ともに重要文化財。平成10年、カムバック仁王様市民の会により、仁王門の修理と仁王様のお帰りが実現し、記念に横綱貴乃花関の奉納土俵入りが行われました。

国重要文化財の愛染明王坐像

赤岩寺

新緑の名所



赤岩寺仁王門

神亀3年(726)聖武天皇の勅願により行基が開創、赤岩山法言寺と称し、天安元年(857)弘法大師の十大弟子の一人杲隣上人が中興し、真言宗に改めました。その後の歴史は必ずしも明らかではないですが、近年の調査によって歴代住職に伝わる密教法具の金剛杵が平安時代のものと判明し、鎌倉時代初期には三河守護職安達盛永が源頼朝の命で建立した三河七御堂の一つに法言寺弥陀堂が挙げられ、一山十二坊を擁していました。応仁の乱後衰微し、今川・徳川・戸田家等から庇護を受けましたが、現在は牟呂の坂津寺のみ末寺として残っています。寺号が変わったのは、慶長年間寺社奉行が誤って記録したためと伝えられています。

国重要文化財の愛染明王坐像は鎌倉時代の作で、東海地方を代表する仏像です。一面三目六臂で口を開けた獅子冠を頂く通形の愛染明王です。昭和4年から3年かけての修理の際、獅子冠内から愛染明王小像104軀、愛染明王名号などが発見されました。

裏山を「赤岩山緑地」として開放しており、展望台や自然歩道が整備され、眺望の良い場所が点在しています。春はヤマザクラ、夏は新緑、秋は紅葉と四季折々の自然景観をお楽しみ頂けます。

国重文の仏像6軀と頼朝身丈不動

普門寺

紅葉の名所



普門寺仁王門

神亀4年(727)聖武天皇の勅願により行基が開創。密教興隆の気配に満ちた霊山に聖観音と五大明王を祀り、最盛期には3000余の坊舎を抱えて繁栄しました。

堂塔坊舎が焼失する悲運に見舞われたが、頼朝の叔父にあたる化積けしやくが住職となり再興、頼朝が当寺を訪れ自身と等身大の不動明王像(県文化財・頼朝身丈不動)を彫刻させ、平家追討の祈願をしました。

その後、頼朝は上洛の際に再び当寺を訪れ寺領1000石を寄進、三河七御堂の一つ観音堂を建立しました。

戦国の動乱に巻き込まれ一時衰退するが、今川家の庇護を受け、徳川家歴代将軍からは朱印100石を認められました。

現在は市内最多の文化財を所蔵し、国重要文化財6軀みたち&頼朝身丈不動が並ぶ姿は迫力満点です。2016年「みうらじゅん×いとうせいこう見仏トークライブ」を開催し注目を集めました。

境内は江戸時代のお堂が残り、豊かな自然に囲まれています。

秋に咲く珍しい桜「ヒマラヤザクラ」と「紅葉」を同時に楽しめる「豊橋のもみじ寺」として親しまれています。

季節限定で販売している、豊橋名物の有楽製菓ブラックサンダーとコラボした「フモンジサンダー」が寺土産として大人気です!

お問い合わせ
(三河三古刹事務局)

普門寺 ☎0532-41-4500(8~17時/FAX 0532-41-4501) 担当:林義将ぎしやう(住職)

住所:441-3104 愛知県豊橋市雲谷町ナベ山下7 E-Mail:humonji727@gmail.com